SONY

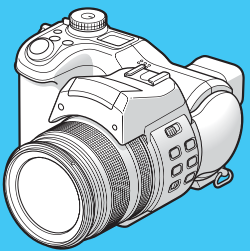
3-084-996-**04** (1)

取扱説明書

サイバーショット基本編

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

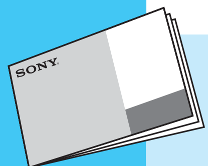
この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書と別冊の「サイバーショット応用編／困ったときは」、「安全のために」をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。



Cyber-shot
Digital Still Camera

InfoLITHIUM™ M SERIES

MEMORY STICK ™



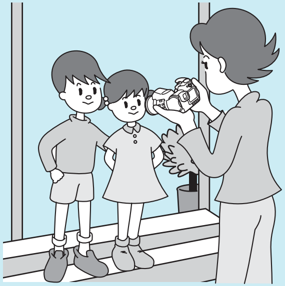
別冊の
「サイバーショット応用編／困ったときは」もご覧ください。

DSC-F828

こんなことができます

静止画を撮る

➡ 19～37ページ



パソコンに取り込んで見る

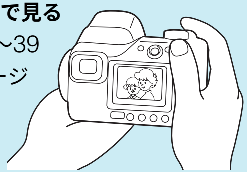
➡ 46～63ページ



静止画を見る

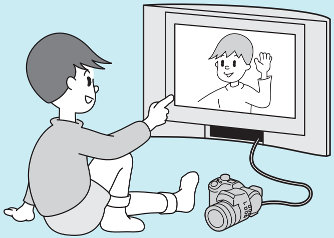
液晶画面で見る

➡ 38～39ページ



テレビで見る

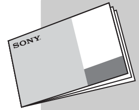
➡ 40ページ



Eメールに添付して送る

➡ 別冊応用編 40ページ

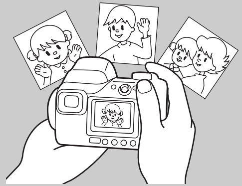




別冊の*「サイバーショット応用編／困ったときは」*

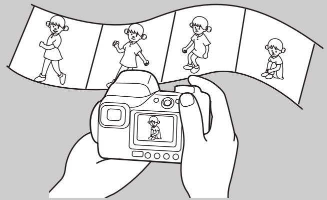
いろいろな静止画の撮影／再生／編集

➡ 10～51、65～76ページ



動画を撮る／見る

➡ 59～64ページ



困ったときは ➡ 77～95ページ

目次

別冊の「サイバーショット応用編／困ったときは」について

「サイバーショット応用編」では、静止画の応用的な使いかたや、動画の撮影方法などを説明しています。

また、**「困ったときは」**（77〜95ページ）では、本機を操作していて困ったときの代表的な対処方法を説明しています。

「サイバーショット応用編／困ったときは」に操作方法などの詳しい説明が載っている場合、本書では「**別冊応用編 ➡ ページ番号**」のようにご案内しています。

お使いになる前に

ためし撮り

必ず事前にためし撮りをして、正常に記録されていることを確認してください。

撮影内容の補償はできません

万一、カメラや記録メディアなどの不具合により撮影や再生がされなかった場合、画像や音声などの記録内容の補償については、ご容赦ください。

バックアップのおすすめ

万一の誤消去や破損にそなえ、必ず予備のデータコピーをおとりください。

画像の互換性について

- 本機は、（社）電子情報技術産業協会（JEITA）にて制定された統一規格 “ Design rule for Camera File system ”に対応しています。
- 本機で撮影した画像の他機での再生、他機で撮影／修正した画像の本機での再生は保証いたしません。

著作権について

あなたがカメラで撮影したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興業、展示物などの中には、個人として楽しむなどの目的があっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

レーザー安全基準について

この装置は、レーザーに関する安全基準（IEC60825-1）クラス1適合のデジタルスチルカメラです。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

本機に振動や衝撃を与えないでください！

誤作動したり、画像が記録できなくなるだけでなく、記録メディアが使えなくなったり、撮影済みの画像データが壊れることがあります。

液晶画面、液晶ファインダー（搭載機種のみ）およびレンズについて

- 液晶画面や液晶ファインダーは有効画素99.99%以上の非常に精密度の高い技術で作られていますが、黒い点が現れたり、白や赤、青、緑の点が消えないことがあります。これは故障ではありません。これらの点は記録されませんので安心してお使いください。
- 液晶画面や液晶ファインダー、レンズを太陽に向けたままにすると故障の原因になります。窓際や屋外に置くときはご注意ください。
- 液晶画面を強く押さないでください。画面にムラが出たり、液晶画面の故障の原因になります。

- 寒い場所でご使用になると、画像が尾を引いて見えることがありますが、故障ではありません。

フラッシュ表面の汚れは取り除いてご使用ください！

発光による熱でフラッシュ表面の汚れが変色したり、貼り付いたりすると、フラッシュが充分な量を発光できない場合があります。

可動式レンズについて

本機は可動式レンズを採用しております。レンズ部をぶつけたり、無理な力をかけないようご注意ください。

水や湿気にご注意ください！

雨の日などに屋外で撮影するときは、本機を濡らさないようにご注意ください。水滴が内部に入り込むと、故障の原因になるだけでなく、修理できなくなることもあります。
結露が起きたときは、結露を取り除いてからご使用ください（**別冊応用編** → 108ページ）。

砂やほこりにご注意ください！

砂やほこりの舞っている場所でのご使用は故障の原因になります。

日光および強い光に向けて本機を使用しないでください！

目に回復不可能なほどの障害をきたすおそれがあります。また故障の原因にもなります。

使用する場所について

強力な電波を出すところや放射線のある場所で使わないでください。正しく撮影・再生ができないことがあります。

カール ツァイスレンズ搭載

本機はカール ツァイスレンズを搭載し、繊細な映像表現を可能にしました。本機用に生産されたレンズは、ドイツ カール ツァイスとソニーで共同開発した、MTF#測定システムを用いてその品質を管理され、カール ツァイスレンズとしての品質を維持しています。
さらに本機はT*コーティングを採用しており、不要な反射を抑え、忠実な色再現性を実現しております。

モジュレーション　トランスファー　ファンクション
\# Modulation Transfer Functionの略。コントラストの再現性を表す指標です。被写体のある部分の光を、画像の対応する位置にどれだけ集められるかを表す数値。

本書中の画像について

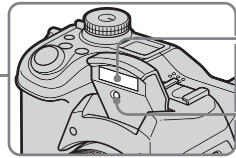
画像の例として本書に掲載している写真はイメージです。本機を使って撮影したものではありません。

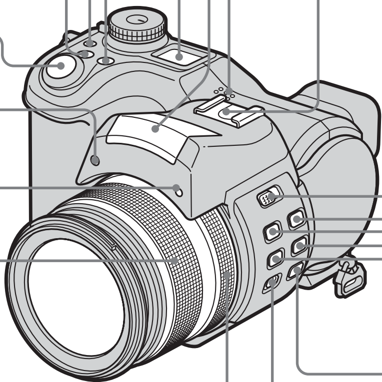
商標について

- " Memory Stick "(" メモリースティック ")、MEMORY STICK ™ および" MagicGate Memory Stick "(" マジックゲート メモリースティック ") はソニー株式会社の商標です。
- " メモリースティック　デュオ "および " MEMORY STICK DUO "はソニー株式会社の商標です。
- " メモリースティック　PRO "および " MEMORY STICK PRO "はソニー株式会社の商標です。
- " マジックゲート "および " MAGICGATE "はソニー株式会社の商標です。
- " InfoLITHIUM（インフォリチウム）"はソニー株式会社の商標です。
- MicrosoftおよびWindowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- MacintoshおよびMac OS、QuickTimeは、Apple Computer, Inc.の登録商標または商標です。
- PentiumはIntel Corporationの登録商標または商標です。
- コンパクトフラッシュ（CompactFlash）は、米国サンディスク社の商標です。
- Microdriveは、Hitachi Global Storage Technologiesの登録商標です。
- その他、本書に記載されているシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中には™、®マークは明記していません。

各部のなまえ

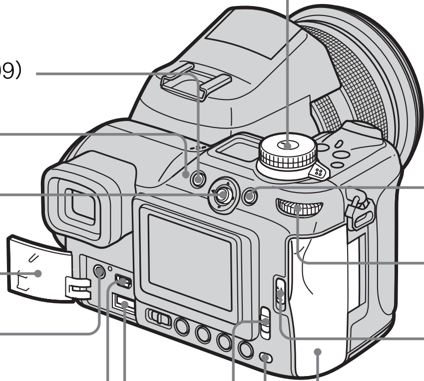
カッコ内の数字はページ数です。





別冊の**「サイバーショット応用編／困ったときは」**に操作方法などの詳しい説明が載っている場合、本書では「**別冊応用編 ━━** ページ番号」のようにご案内しています。

- ☼（表示窓バックライト）ボタンを押すと、表示窓のバックライトが約7秒間点灯します。



メニュー
MENUボタン（別冊応用編 ➡ 5、99）

⚡（フラッシュ）ランプ
（別冊応用編 ➡ 27）

マルチセレクター（▲/▼/◀/▶）（16）

端子カバー（12、15）

モノラル
A/V OUT（MONO）端子（40）

Ψ（USB）端子（52）

DC IN端子（12、15）

/CF（"メモリースティック"／CFカード）
スイッチ（19）

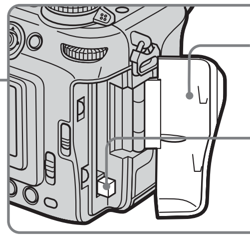
アクセスランプ（20）

モードダイヤル（25）
- 📷: 静止画オート撮影
- P: プログラムオート撮影
- S: シャッタースピード優先モード
- A: 絞り優先モード
- M: マニュアル露出モード
- シーン
  SCN: シーンセレクション
- セットアップ
  SET UP: SET UPの項目設定
- 🎞: 動画撮影
- ▶: 画像再生／編集

ロック
AE LOCK/🗑（露出固定／削除）ボタン
（41 、別冊応用編 ➡ 21）

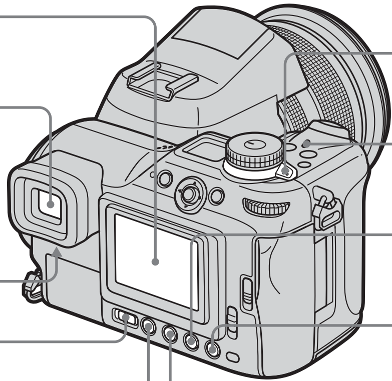
コマンドダイヤル（別冊応用編 ➡ 6）

オープン
◢OPEN（CF）つまみ（21）

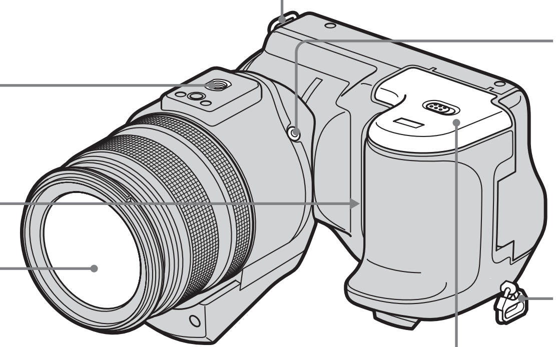


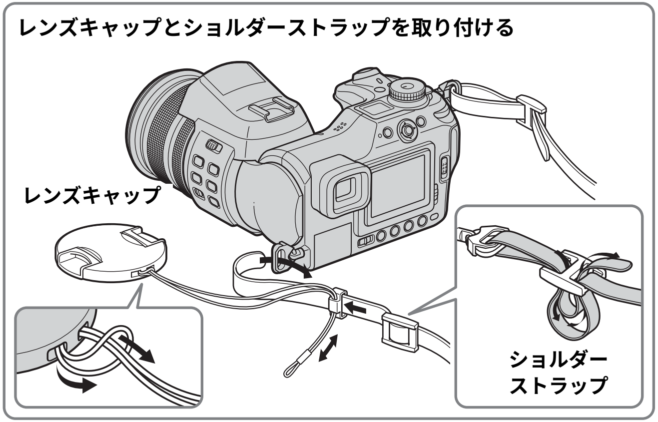
CFカードカバー（21）

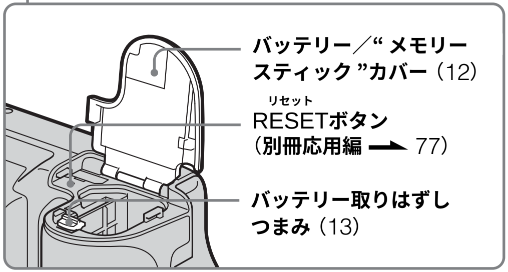
CFカード取り出し
つまみ（22）



液晶画面
ファインダー（28）
視度調節レバー（28）
ファインダー
FINDER/LCDスイッチ（28）
（画面表示切り換え）ボタン（28）
/（セルフタイマー／インデックス）
ボタン（33、39）
パワー
POWERスイッチ（16）
パワー
POWERランプ（16）
（デジタルズーム／再生ズーム）
ボタン（29、別冊応用編 ➡ 43）
（クイックレビュー）ボタン（27）





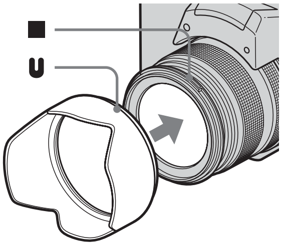


- ACC端子には外部フラッシュやリモコン三脚などを接続します。
- 三脚を取り付けるときは、ネジの長さが5.5 mm未満の三脚をお使いください。
ネジの長い三脚ではしっかり固定できず、本機を傷つけることがあります。

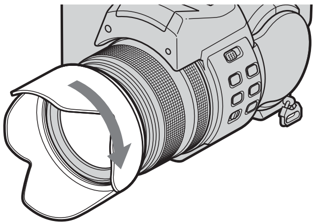
レンズフードを取り付ける

屋外など明るいところで撮影するときは、不要な光による画質劣化をおさえるためにレンズフードを取り付けることをおすすめします。

1 レンズフードを下記の向きにして、レンズフードのUとレンズ部の■を合わせて取り付ける



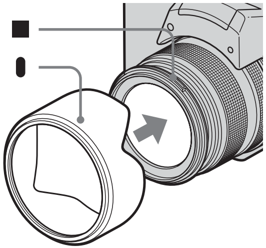
2 レンズフードを「カチッ」と音がするまで回す



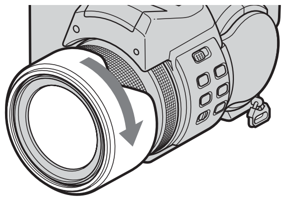
レンズフードを収納する

本機を使わないときは、レンズフードの向きを逆に取り付けて固定することができます。

1 レンズフードを下記の向きにして、レンズフードの▮とレンズ部の■を合わせて取り付ける

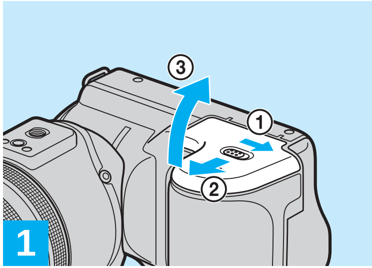


2 レンズフードを「カチッ」と音がするまで回す



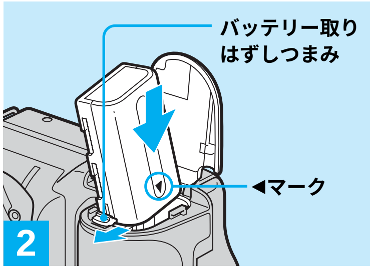
- レンズフードを取り付けていても、レンズキャップを付けられます。
- レンズフードを取り付けているとフラッシュやホログラフィックAF、赤外線の発光がさまたげられます。

バッテリーを充電する



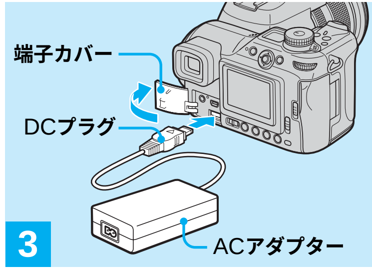
➡ **バッテリー／“ メモリースティック ”カバーを開ける**

矢印の方向にスライドさせると、開きます。



➡ **バッテリーを入れて、バッテリー／“ メモリースティック ”カバーを閉める**

バッテリーの◀マークを奥にして入れます。
バッテリーが奥まで確実に入ったことを確かめてからカバーを閉めてください。



➡ **端子カバーを開け、ACアダプター（付属）のケーブルを本機のDC IN端子につなぐ**

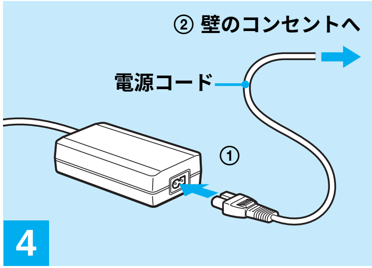
端子カバーを矢印の方向に開きます。
DCプラグの▲マークを上にしてつなぎます。

- **バッテリーを充電するときは、必ず本機の電源を切ってください（16ページ）。**
- 本機の電源には“ インフォリチウム ”バッテリー（Mシリーズ）NP-FM50（付属）を使用します。それ以外のバッテリーはお使いになれません（**別冊応用編 ➡** 111ページ）。

- バッテリーの先端でバッテリー取りはずしつまみをカメラ正面側に押しながらバッテリーを入れると、簡単に入ります。

- ACアダプターのDCプラグを金属類でショートさせないでください。故障の原因になります。
- ACアダプターのDCプラグを汚れたまま使わないでください。汚れは乾いた綿棒などで拭き取ってください。
汚れたままご使用になると、正しく充電されないことがあります。

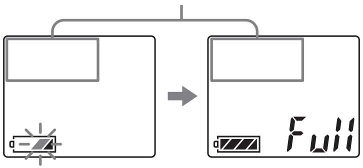
4



➡ 電源コードをACアダプターと壁のコンセントにつなぐ

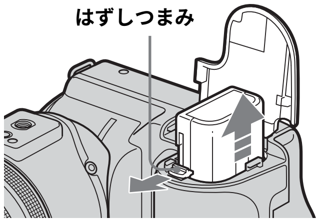
充電が始まり、表示窓のバッテリーマークが点滅します。
充電が終わるとFull表示が出ます。

撮影可能時間が表示されます



- 表示窓の撮影可能時間は、“ メモリースティック ”使用時にモードダイヤルを「📷」、バックライトを［標準］にして、NIGHTSHOT/NIGHTFRAMING機能を使用していない場合での時間です。
- バッテリーの充電が終わったら、ACアダプターを本機のDC IN端子と壁のコンセントから取りはずしてください。

バッテリーを取り出す

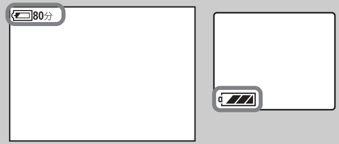


バッテリー／“ メモリースティック ”カバーを開け、バッテリー取りはずしつまみを矢印の方向に押して取り出してください。

- 取り出すときは、バッテリーが落下しないようにご注意ください。

バッテリー残量時間表示

撮影／再生可能な残り時間が画面と表示窓に表示されます。



液晶/ファインダー画面　　**表示窓**

- 使用状況や環境によっては、正しく表示されない場合があります。
- FINDER/LCDスイッチで画面を切り換えたときや/CFスイッチで記録メディアを切り換えたときは、正しい残量時間を画面に表示するのに約1分かかります。

充電時間

使い切ったバッテリーを温度25℃の環境で、ACアダプターで充電したときの時間です。

バッテリー	充電時間
NP-FM50（付属）	約150分

準備する

バッテリーの使用時間と撮影／再生可能枚数

次の表は撮影モードを通常撮影にし、充電した付属のバッテリーで温度25℃の環境で使用した場合の目安です。また、撮影／再生枚数は別売りの“メモリースティック”またはマイクロドライブを交換しながら撮影／再生したときの目安です。ご使用の状況によって記載より少ない数値になる場合があります。

静止画を撮影するとき

標準撮影[1)]

記録メディア	NP-FM50（付属）	
	撮影枚数	使用時間
“メモリースティック”	約370枚	約185分
マイクロドライブ	約350枚	約175分

1) 以下の設定で撮影
- 画質設定を［ファイン］にする
- ［AFモード］を［モニタリング］にする
- 30秒ごとに1回撮影
- 1回ごとにズームをW側、T側に交互にいっぱいにする
- 2回に1度、フラッシュを発光する
- 10回に1度、電源を入／切する

静止画を再生するとき[2)]

記録メディア	NP-FM50（付属）	
	再生枚数	使用時間
“メモリースティック”	約9400枚	約470分
マイクロドライブ	約5800枚	約290分

2) 約3秒ごとにシングル画面で順番に再生

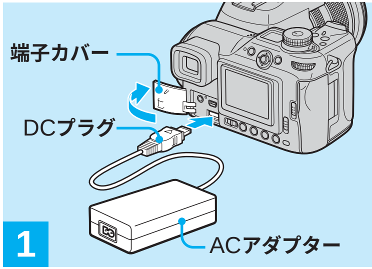
動画を撮影するとき[3)]

	NP-FM50（付属）	
	“メモリースティック”	マイクロドライブ
連続撮影時	約200分	約160分

3) 画像サイズが［160］の場合の連続撮影

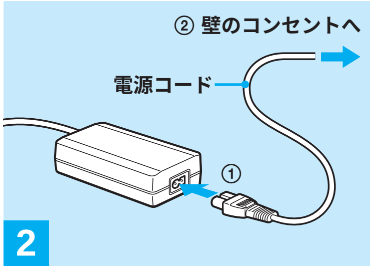
- 次のような場合は使用時間と撮影／再生枚数は、表示よりも少なくなります。
  – 周囲が低温のとき
  – フラッシュ使用時
  – 電源の入／切を繰り返したとき
  – ズームを多用したとき
  – NIGHTSHOT/NIGHTFRAMING機能使用時
  – ［LCDバックライト］または［EVFバックライト］が［明］になっているとき
  – 使用回数を重ねたり、時間が経過してバッテリーの容量が低下したとき（**別冊応用編** ➡ 112ページ）
- 画像サイズを変えても、使用時間と撮影／再生枚数は同じ数値になります。
- ファインダーで撮影／再生しても、液晶画面で撮影／再生してもほぼ同じ数値になります。
- CFカードをお使いの場合は、使用時間と撮影／再生枚数は異なることがあります。

ACアダプターで使う



→ **端子カバーを開け、ACアダプター（付属）のケーブルを本機のDC IN端子につなぐ**

端子カバーを矢印の方向に開きます。
DCプラグの▲マークを上にしてつなぎます。



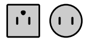
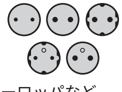
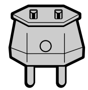
→ **電源コードをACアダプターと壁のコンセントにつなぐ**

• ACアダプターは、お手近なコンセントを使用してください。使用中、不具合が生じたときは、すぐにコンセントからプラグを抜き、電源を遮断してください。

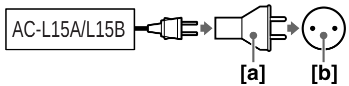
• ACアダプターを壁との隙間などの狭い場所に設置して使用しないでください。
• 使い終わったら、ACアダプターを本機のDC IN端子と壁のコンセントから取りはずしてください。

海外で使うときは

海外のコンセントの種類

壁のコンセントの形状例	変換プラグアダプター
 主に北米など	不要です。
 主にヨーロッパなど	

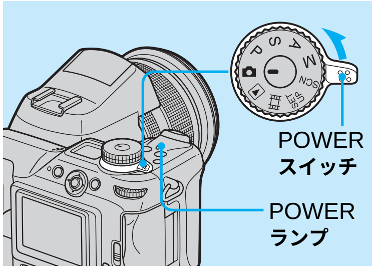
• ACアダプター（付属）は、全世界の電源（AC 100 V～240 V・50/60 Hz）でお使いいただけます。
• 下図のように、ACアダプターを差し込む変換プラグアダプター**[a]**が必要になる場合があります。



• 変換プラグアダプター**[a]**／電源コンセント**[b]**の形状は旅行先の国や地域によって異なります。あらかじめ、旅行代理店などでおたずねの上、ご用意ください。
• 電子式変圧器（トラベルコンバーター）はご使用にならないでください。故障の原因となります。

準備する

電源を入れる／切る



➡ POWERスイッチを矢印の方向にずらす

POWERランプが緑色に点灯し、電源が入ります。初めて電源を入れたときは、時計設定画面が表示されます（17ページ）。

電源を切る

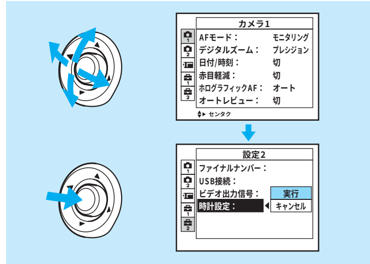
POWERスイッチを再び矢印の方向にずらすと、POWERランプが消え、電源が切れます。

オートパワーオフ機能

バッテリーを使って、撮影、再生またはセットアップを行っているとき、本機の電源を入れたまま約3分間操作をしないと、バッテリーの消耗を防ぐため、自動的に電源が切れます。
ただし、バッテリー使用中でも、下記の場合はオートパワーオフ機能は働きません。

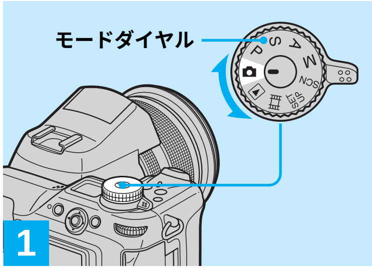
- 動画再生時
- スライドショー実行時
- ψ(USB）端子またはA/V OUT（MONO）端子にプラグが接続されているとき

マルチセレクターについて

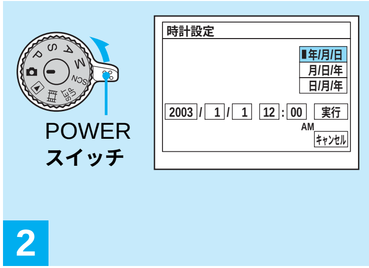


本機の設定を変えるときは、画面にメニューやSET UP画面（**別冊応用編** ➡ 5、6ページ）を表示させ、マルチセレクターを使って操作します。
メニューの項目を設定するときは、マルチセレクターを▲/▼/◀/▶の方向に動かして項目や設定を選び、決定します。
SET UPの項目を設定するときは、マルチセレクターを▲/▼/◀/▶の方向に動かして項目や設定を選び、最後に中央を押して決定します。

日付／時刻を合わせる

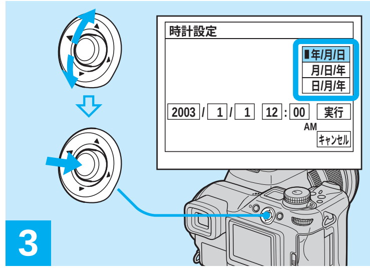


➡ モードダイヤルを「📷」にする



➡ POWERスイッチを矢印の方向にずらして、電源を入れる

POWERランプが緑色に点灯します。
時計設定画面が表示されます。

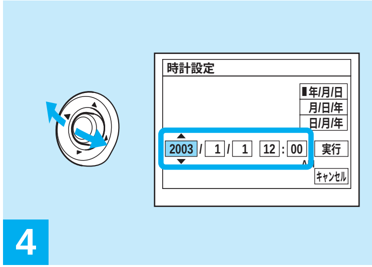


➡ マルチセレクターを▲/▼に動かして年月日の表示順を選び、中央を押す

表示は、［年/月/日］、［月/日/年］、［日/月/年］の中から選びます。

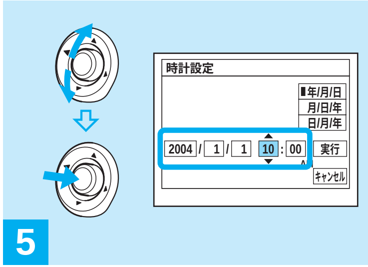
- モードダイヤルを「P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」、「🎞」、「▶」の位置にしても操作できます。
- 一度設定した日付、時刻を合わせ直すときは、モードダイヤルを「SET UP」に合わせ、［🧰2］（設定2）の［時計設定］を選び（**別冊応用編** ➡ 6、106ページ）、手順**3**から行ってください。

- 時計の設定を記憶しておくための充電式ボタン電池の残量が少なくなると（**別冊応用編** ➡ 108ページ）、自動的に時計設定画面が表示されます。このときは手順**3**以降を行って日付、時刻を設定し直してください。



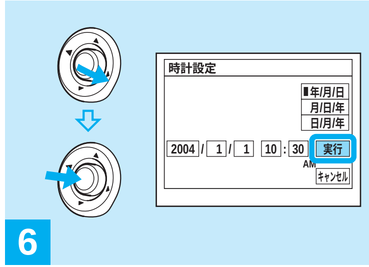
➡ マルチセレクターを◀/▶に動かして設定する年、月、日、時、分の項目を選ぶ

設定する項目の上下に▲/▼が表示されます。



➡ マルチセレクターを▲/▼に動かして数値を設定し、中央を押す

数値が確定され、次の項目に移ります。手順4と5を繰り返して、すべての項目を設定してください。



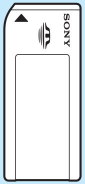
➡ マルチセレクターを▶に動かして［実行］を選び、中央を押す

日付・時刻が設定され、時計が動き始めます。

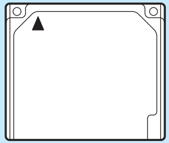
- 手順3で［日/月/年］を選んだときは、24時間表示で設定してください。
- 真夜中は12:00AM、正午は12:00PMと表示します。

- 中止するときは、マルチセレクターで［キャンセル］を選び、中央を押します。

記録メディアを入れる／取り出す



" メモリースティック "



マイクロドライブ／
コンパクトフラッシュカード

本機では記録メディアとして、" メモリースティック "、マイクロドライブ、またはコンパクトフラッシュカード（CFカード）が使用できます。

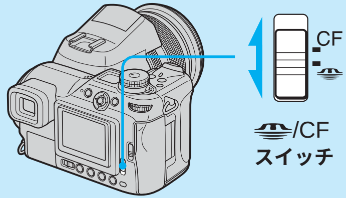
マイクロドライブ

日立グローバルストレージテクノロジーズ社製
DSCM-11000（1GB）
HMS360402D5CF00（2GB）
HMS360404D5CF00（4GB）

CFカード（CompactFlash Type I、Type II対応）については、動作確認を行っておりますが、すべてのCFカードの動作を保証するものではありませんのでご了承ください。

- 本機では、各メディア間での画像のコピーはできません。
- " メモリースティック "については、**別冊応用編** ➡ 109ページをご覧ください。
- マイクロドライブは、CompactFlash Type IIに準拠した小型、軽量のハードディスクドライブです。マイクロドライブについては、**別冊応用編** ➡ 110ページをご覧ください。
- マイクロドライブおよびCFカードは、必ず本機でフォーマットしてからお使いください。本来の性能を出せないことがあります（44ページ）。

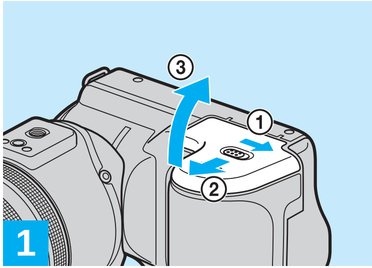
メディアを切り換える



➡ /CFスイッチで記録メディアを選ぶ

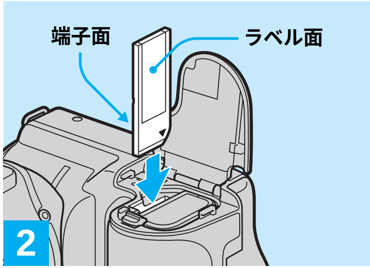
：" メモリースティック "を使って記録／再生するとき
CF： マイクロドライブまたはCFカードを使って記録／再生するとき

“ メモリースティック ”を入れる／取り出す



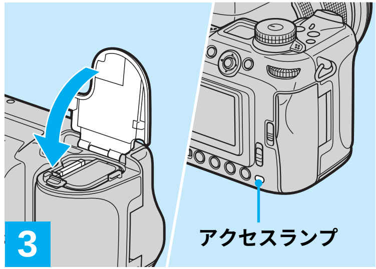
➡ バッテリー／“ メモリースティック ”カバーを開ける

矢印の方向にスライドさせると、開きます。



➡“ メモリースティック ”を入れる

“ メモリースティック ”を図の向きで「カチッ」と音がするまで差し込んでください。



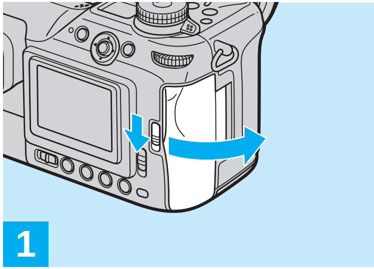
➡ バッテリー／“ メモリースティック ”カバーを閉める

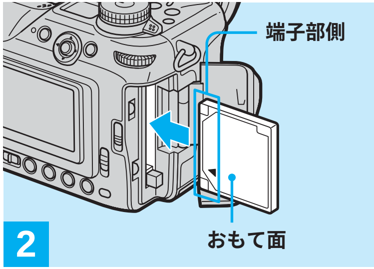
“ メモリースティック ”を取り出すには
バッテリー／“ メモリースティック ”カバーを開け、“ メモリースティック ”を1回押して取り出してください。

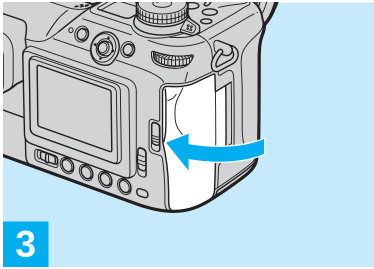
- “ メモリースティック ”を入れるときは、奥まできちんと差し込んでください。正しく差し込まないと正常な記録、再生ができないことがあります。

- **アクセスランプが点灯しているときは、画像の記録中、読み出し中です。このとき、絶対に“ メモリースティック ”を取り出したり、電源を切ったりしないでください。データが壊れることがあります。**

マイクロドライブまたはCFカードを入れる／取り出す







1 → CFカードカバーを開ける

◢OPEN（CF）つまみを矢印の方向にスライドさせると、開きます。

2 → マイクロドライブまたはCFカードを入れる

マイクロドライブまたはCFカードを図の向きで端子部側から差し込んでください。

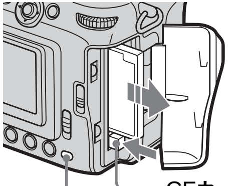
- マイクロドライブまたはCFカードが奥まで入らない場合は、無理に押し込まずに、マイクロドライブまたはCFカードの向きを確かめてください。向きを間違えて入れると、本機およびマイクロドライブまたはCFカードを破損する恐れがあります。

3 → CFカードカバーを閉める

- CFカードカバーが正しく閉じられていないと、マイクロドライブまたはCFカードを使った撮影、再生ができません。

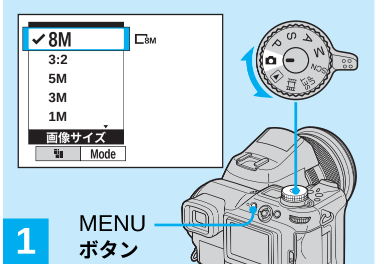
マイクロドライブまたはCFカードを取り出すには

CFカードカバーを開け、CFカード取り出しつまみを押して取り出してください。



- 使用直後はマイクロドライブが熱くなっている場合がありますので、ご注意ください。
- **アクセスランプが点灯しているときは、画像の記録中、読み出し中です。このとき、絶対にマイクロドライブまたはCFカードを取り出したり、電源を切ったりしないでください。データの破損やマイクロドライブまたはCFカードそのものが使用できなくなることがあります。**

静止画の画像サイズを決める

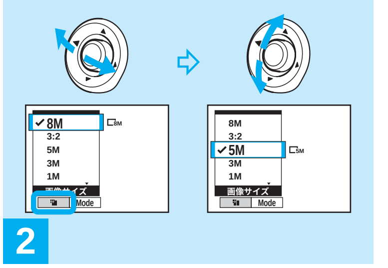


1

➡ モードダイヤルを「📷」にしてから、電源を入れ、MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

- モードダイヤルを「P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」の位置にしても操作できます。



2

➡ マルチセレクターを◀/▶に動かして［画像サイズアイコン］（画像サイズ）を選ぶ。
▲/▼に動かして希望の画像サイズを選ぶ

画像サイズが確定します。
設定が終わったら、MENUボタンを押してください。画面からメニューが消えます。

- 画像サイズについては、23ページをご覧ください。
- ここで選んだ画像サイズの設定は、電源を切った後も保持されます。

画像サイズについて

撮影目的に合わせて、画像のサイズ（画素数）と画質（圧縮率）を選ぶことができます。画像サイズを大きく、画質を高くするほど、画像はきれいになりますが、データ容量が大きくなり、記録メディアに記録できる枚数は少なくなります。
目的に合った画像サイズと画質をお選びください。

画像サイズ		用途の目安
8M [1] (3264×2448)	大きい ↑	• 大切な画像を保存したり、A3サイズプリントやA4サイズ高精細プリントする場合
3:2 [2] (3264×2176)		
5M (2592×1944)		• A4サイズプリントや、A5サイズ高精細プリントする場合
3M (2048×1536)		
1M (1280×960)		• 写真のL版でプリントする場合
VGA (640×480)	↓ 小さい	• より多くの画像を撮影する場合 Eメールへの画像添付やホームページ作成用の場合

[1] お買い上げ時は［8M］に設定されています。本機で最高の画質が撮れるサイズです。
[2] 写真の印画紙、ポストカードなどと同じく3:2の横縦比で撮影します。

"メモリースティック"1枚に記録できる枚数[3]

枚数はファイン（スタンダード）[4] の順で記載されています。

（単位：枚）

容量 / 画像サイズ	16MB	32MB	64MB	128MB	MSX-256	MSX-512	MSX-1G
8M	4 (7)	8 (15)	16 (30)	32 (60)	59 (109)	121 (223)	247 (456)
3:2	4 (7)	8 (15)	16 (30)	32 (60)	59 (109)	121 (223)	247 (456)
5M	6 (11)	12 (23)	25 (48)	51 (96)	92 (174)	188 (354)	384 (723)
3M	10 (18)	20 (37)	41 (74)	82 (149)	148 (264)	302 (537)	617 (1097)
1M	24 (46)	50 (93)	101 (187)	202 (376)	357 (649)	726 (1320)	1482 (2694)
VGA	97 (243)	196 (491)	394 (985)	790 (1975)	1428 (3571)	2904 (7261)	5928 (14821)

[3] 撮影モードが［通常撮影］の場合
その他のモードの記録枚数は**別冊応用編** ➡ 96、97ページをご覧ください。
[4] 画質（圧縮率）については**別冊応用編** ➡ 7ページをご覧ください。

マイクロドライブ1枚に記録できる枚数[3)]

枚数はファイン（スタンダード）[4)]の順で記載されています。

（単位：枚）

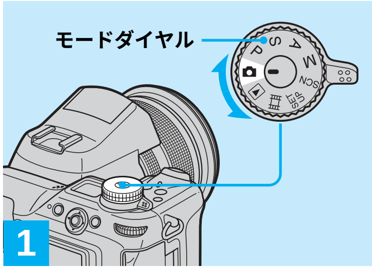
容量 / 画像サイズ	1G（DSCM-11000）
8M	273 (505)
3:2	273 (505)
5M	426 (801)
3M	684 (1217)
1M	1643 (2988)
VGA	6573 (16434)

3) 撮影モードが［通常撮影］の場合
その他のモードの記録枚数は**別冊応用編** ➡ 98ページをご覧ください。

4) 画質（圧縮率）については**別冊応用編** ➡ 7ページをご覧ください。

- 当社従来モデルで撮影された画像を再生したとき、実際の画像サイズと異なる表示になる場合があります。
- 本機の画面で見るときはどの画像サイズでも同じ大きさに見えます。
- 記録枚数は、撮影状況によって数値と異なる場合があります。
- 撮影残枚数が9999枚より多いときは、画面に「>9999」と表示されます。表示窓には999枚より多いときに「999」と表示されます。
- 撮影した画像のサイズをあとで変えることもできます（リサイズ機能、**別冊応用編** ➡ 49ページ）。

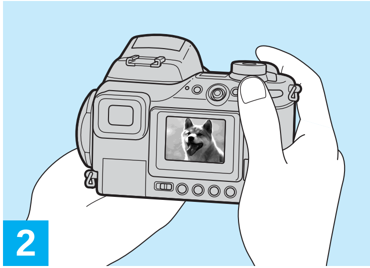
簡単に撮る ― オート撮影



→ **モードダイヤルを「📷」にして、電源を入れる**

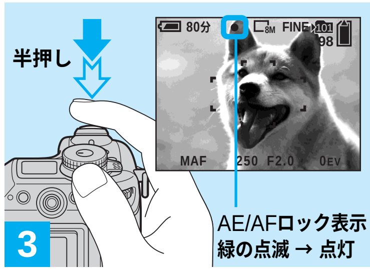
画面に画像の記録フォルダの名前が約5秒間表示されます。
レンズキャップをはずしてください。

- 記録メディアの選択は、メモリースティック/CFスイッチを使って行ってください（19ページ）。
- 本機では、記録メディアに記録するフォルダを新しく作成したり、選択することができます（**別冊応用編** ➡ 8ページ）。



→ **両手でカメラを構え、被写体をフレーム中央部におさめる**

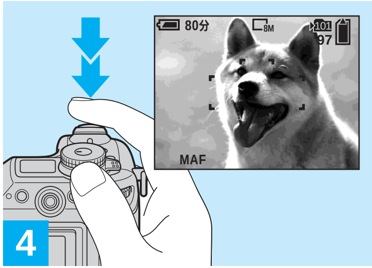
- ピント合わせに必要な被写体までの距離は、W側で約50 cm以上、T側で約60 cm以上です。これより近くの被写体を撮影するときは近接（マクロ）撮影してください（32ページ）。
- 画面内に出る枠はピント合わせを行う範囲を表します（AF測距枠、**別冊応用編** ➡ 24ページ）。



→ **シャッターボタンを半押しする**

「ピピッ」と音がします。画面内のAE/AFロック表示が点滅から点灯に変わると、撮影可能です。（被写体によっては画面が一瞬止まる場合があります。）
撮影状況の光量が足りないと判断した場合、自動的にフラッシュ発光部が持ち上がり発光します。

- シャッターボタンを離せば、いつでも撮影を中止できます。
- 「ピピッ」と音がしないときでも、このまま撮影することができますが、ピント合わせは正しく設定されていません。（コンティニュアスAF時を除く、**別冊応用編** ➡ 25ページ）



→ 半押しのまま、シャッターボタンをさらに押し込む

「カシャッ」と音がして、撮影が完了し、静止画が記録メディアに記録されます。

- バッテリーを使って撮影を行っているとき、本機の電源を入れたまま一定時間操作をしないと、バッテリーの消耗を防ぐため、自動的に電源が切れます（16ページ）。

静止画撮影のモードダイヤルについて

本機で静止画を撮影するときは、以下のような撮影方法があります。

（静止画オート撮影）
撮影に必要なピント合わせや露出、ホワイトバランスの調節を自動で行うため、簡単に撮影することができます。また、画質は［ファイン］になります（**別冊応用編 →** 7ページ）。

P（プログラムオート撮影）
静止画オート撮影と同様に、撮影に必要な調節を自動で行っていますが、ピント合わせや絞りなどの調節を意図的に変えることもできます。また、メニューで撮影機能を設定できます（**別冊応用編 →** 5、99ページ）。

S（シャッタースピード優先）
シャッタースピードを選べます（**別冊応用編 →** 13ページ）。また、メニューで撮影機能を設定できます（**別冊応用編 →** 5、99ページ）。

A（絞り優先）
絞り値を選べます（**別冊応用編 →** 15ページ）。また、メニューで撮影機能を設定できます（**別冊応用編 →** 5、99ページ）。

M（マニュアル露出）
シャッタースピードと絞り値を手動で調節できます（**別冊応用編 →** 16ページ）。また、メニューで撮影機能を設定できます（**別冊応用編 →** 5、99ページ）。

SCN（シーンセレクション）
シーンに応じて最適な撮影ができます。以下のモードが選択できます（36ページ）。
―（夜景モード）
―（夜景&人物モード）
―（風景モード）
―（ポートレートモード）
また、メニューで撮影機能を設定できます（**別冊応用編 →** 5、99ページ）。

自動ピント合わせについて

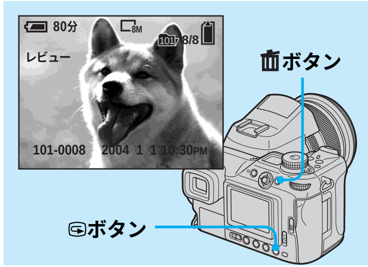
ピントを合わせにくい被写体を撮影しようとしたときは、点滅していたAE/AFロック表示が遅い点滅に変わります。また、ロック時の「ピピッ」音がしません（コンティニュアスAF時を除く、**別冊応用編** ➡ 25ページ）。

自動ピント合わせ（AF＝オートフォーカス）の場合は、下記の条件でピントが合いにくいことがあります。構図を変えるなどしてもう1度ピントを合わせてみてください。

- 被写体が遠くて暗い
- 被写体と背景のコントラストが弱い
- ガラス越しの被写体
- 高速で移動する被写体
- 鏡や発光物など反射、光沢のある被写体
- 点滅する被写体
- 逆光になっている被写体

本機には、被写体の位置やその大きさによってピント合わせの位置を設定できる「AF測距枠」と、ピント合わせを開始／終了するタイミングを設定できる「AFモード」の2つの機能があります。詳しくは**別冊応用編** ➡ 24ページをご覧ください。

最後に撮影した画像を確かめる ― クイックレビュー



➡ （クイックレビュー）ボタンを押す

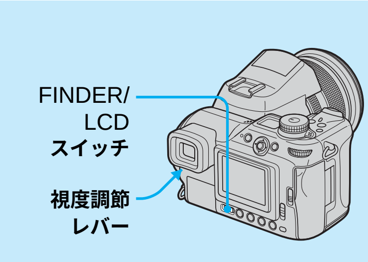
通常の撮影モードに戻るには、シャッターボタンを軽く押すか、もう1度（クイックレビュー）ボタンを押します。

表示された画像を削除する

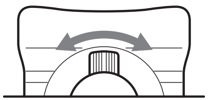
1 （削除）ボタンを押す。

2 マルチセレクターを▲に動かして［削除］を選んで、中央を押す。
画像が削除されます。

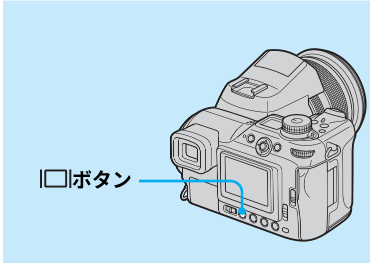
ファインダーで撮る



FINDER/LCDスイッチを使ってファインダーで撮影するか液晶画面で撮影するかを切り換えることができます。
ファインダーに設定すると、液晶画面に画像は映りません。視力に合わせて視度調節レバーを回し、ファインダー内の画像がはっきり見えるように調節してください。

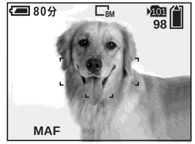


画面上の表示を切り換える



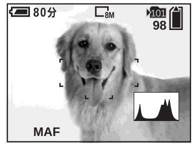
|□|（画面表示切り換え）ボタンを押すたびに、表示が次の順で切り換わります。

画面表示オン



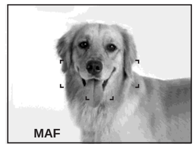
↓

ヒストグラム表示オン
（再生時には、画像情報も表示されます）



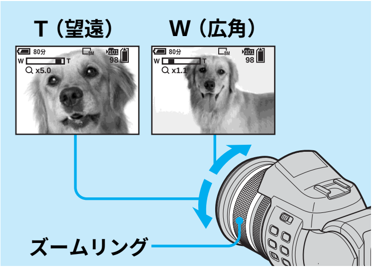
↓

画面表示オフ



- 動画時には、画面表示オン → 画面表示オフになります。
- 表示項目について詳しくは、**別冊応用編** ➡ 116ページをご覧ください。
- ヒストグラムについて詳しくは、**別冊応用編** ➡ 19ページをご覧ください。
- ここで選んだ設定は、電源を切った後も保持されます。

ズームで撮る



➡ ズームリングを回し、希望の大きさにして撮影する

7.1倍までの光学ズームができます。

ピントが合うための最短距離

ズームがW側いっぱいのとき：
レンズ先端から約50 cm

ズームがT側いっぱいのとき：
レンズ先端から約60 cm

- レンズ保護のため、ご使用にならないときはズームをW側いっぱいにしてレンズ部を収納した状態で保管してください。

デジタルズームについて

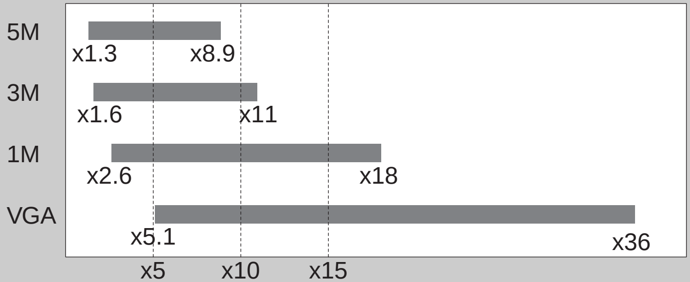
デジタル処理により画像を拡大する機能です。
🔍（デジタルズーム）ボタンを押すとデジタルズームになります。デジタルズームには、「プレシジョンデジタルズーム」と「スマートズーム」の2通りがあります。
拡大方法や拡大倍率は異なりますので目的によって使い分けてください。

ズームの種類によって🔍アイコン表示が異なります。
光学ズーム：🔍×
プレシジョンデジタルズーム：P🔍×
スマートズーム：S🔍×

- RAWモードで撮影するときはデジタルズームは使えません（**別冊応用編** ➡ 39ページ）。
- デジタルズーム時はAF測距枠は表示されません。AF測距枠表示が点滅し、中央付近の被写体を優先したAF動作になります。

プレシジョンデジタルズーム
現在選択されている光学ズーム倍率×2倍の倍率に拡大されます。選択している画像サイズに関係なく最大約14倍まで拡大されます。
画像の一部を切り出して拡大するため、画質は劣化します。
「SET UP」の［デジタルズーム］を［プレシジョン］にしてください（**別冊応用編** ➡ 103ページ）。
お買いあげ時は、［プレシジョン］に設定されています。

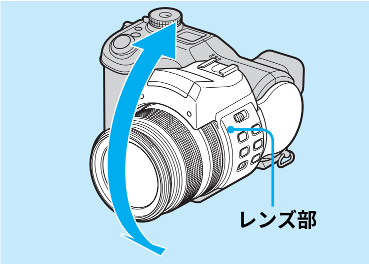
スマートズーム
画像をほとんど劣化させずに拡大します。光学ズームと同じような感覚で使うことが可能です。
現在選択されている光学ズーム倍率×スマートズームの倍率になります。
「SET UP」の［デジタルズーム］を［スマート］にしてください（**別冊応用編** ➡ 103ページ）。
スマートズームの倍率は、選択している画像サイズによって右記のようになります。画面に表示される倍率は、およその値になります。



- **画像サイズが［8M］、［3:2］に設定されているときは、スマートズームを使用できません。**
- マルチ連写中（**別冊応用編** ➡ 35ページ）はスマートズームはできません。また、スマートズーム中に/BRKボタンで（マルチ連写）を選択すると、ズームは解除されます。
- スマートズーム時、画面を見ると画像が粗く見える場合がありますが、撮影される画像には影響ありません。

デジタルズームを解除するには
（デジタルズーム）ボタンをもう1度押してください。
選択されていた元の光学ズーム倍率に戻ります。

レンズ部を回転させて撮る



レンズ部を上側に約70度、下側に約30度まで回転させ、角度を調節できます。

近接撮影 ― マクロ撮影

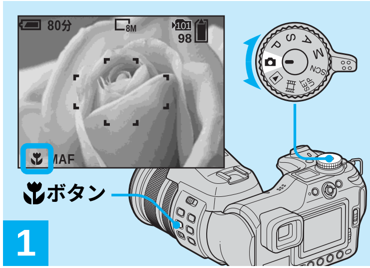


花や昆虫などに接近して撮りたいときは、近接（マクロ）撮影をします。ズームをW側いっぱいにすると2 cmまで被写体に近づいて撮影ができますが、ピント調節できる距離はズームの位置によって変わります。撮影時は、W側いっぱいにすることをおすすめします。

ズームがW側いっぱいのとき：
レンズ先端から約2 cm

ズームがT側いっぱいのとき：
レンズ先端から約60 cm

- フレキシブルスポットAF（**別冊応用編** ➞ 24ページ）のご使用をおすすめします。

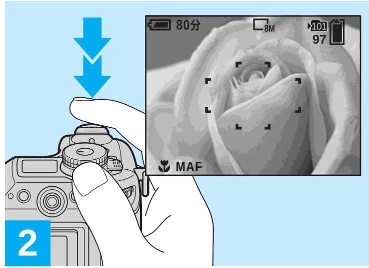


1

➡ モードダイヤルを「」にして、（マクロ）ボタンを押す

画面に（マクロ）が表示されます。

- モードダイヤルを「P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」（（夜景モード）、（風景モード）以外）、「」の位置にしても操作できます。



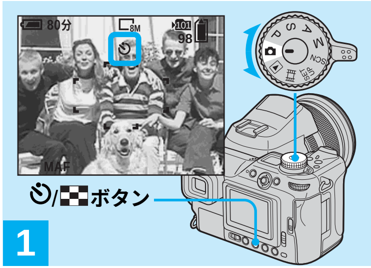
2

➡ 被写体をフレーム中央部におさめ、シャッターボタンを半押しにして、さらに深く押し込む

通常撮影に戻すには
もう1度（マクロ）ボタンを押してください。画面からが消えます。

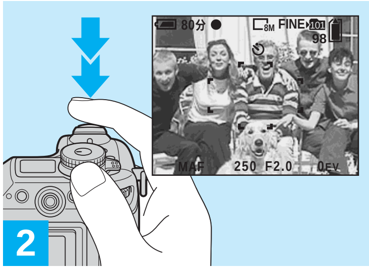
- 近接（マクロ）撮影時は、ピントが合って見える範囲が非常に狭くなるため、被写体全体にピントが合わないことがあります。
- 近接（マクロ）撮影のときは近い被写体に精度よくピント合わせをするためピント合わせが遅くなります。

セルフタイマーで撮る



➡ **モードダイヤルを「」にして、/（セルフタイマー）ボタンを押す**

画面に（セルフタイマー）が表示されます。



➡ **被写体をフレーム中央部におさめ、シャッターボタンを半押しにして、さらに深く押し込む**

セルフタイマーランプ（7ページ）が点滅し、「ピッピッピ」とビープ音が鳴ります。約10秒後に撮影されます。

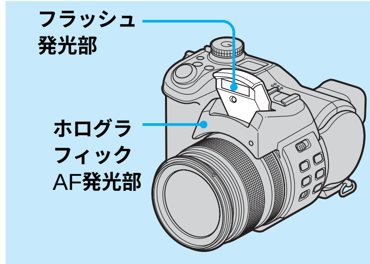
セルフタイマーを途中で止めるには

もう1度/（セルフタイマー）ボタンを押してください。画面からが消えます。

- モードダイヤルを「P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」、「」の位置にしても操作できます。

- カメラの前に立ってシャッターボタンを押すと、ピントや明るさが正しく設定されないことがあります。

フラッシュを使って撮る



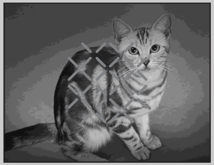
撮影状況により光量が足りないと判断した場合、フラッシュ発光部が自動的に持ち上がり発光します。使用後は手で閉じてください。

- フラッシュ推奨撮影距離はW側で約0.5 m～約4.5 m、T側で約0.6 m～約3.3 mです（[ISO] が [オート] のとき）。
- レンズフード（付属）を付けているとフラッシュの発光がさまたげられます。
- フラッシュを充電している間は、（フラッシュ）ランプが点滅します。充電が完了すると消灯します。
- （強制発光）、SL（スローシンクロ）、（発光禁止）のモードを選ぶことができます。オート以外の方法は、**別冊応用編** ➡ 27ページをご覧ください。

補助光を使って撮影する – ホログラフィックAF

暗い場所でフォーカスを合わせるための補助光です。

撮影時に[ON]が表示され、シャッターボタンを半押ししてフォーカスがロックされるまでの間だけ自動的に赤く発光します。



この機能を使わないときは、「SET UP」の［ホログラフィックAF］を［切］にしてください（**別冊応用編 ➡ 103ページ**）。

- ホログラフィックAFを発光しても、充分な光が被写体に届かない場合（推奨距離はW側で約0.5 m～5.0 m、T側で約0.6 m～3.5 mまで）やコントラストが弱い被写体を撮影する場合、フォーカスは合いません。
- ホログラフィックAFの光が画像の中心からずれる場合がありますが、光が被写体に届いていれば、フォーカスは合います。
- フォーカスを手動で調整しているとき（**別冊応用編 ➡ 26ページ**）、ホログラフィックAFは使えません。
- ホログラフィックAF発光部が汚れていると、ホログラフィックAFの光がぼやけてフォーカスが合いにくくなることがあります。このような場合は、ホログラフィックAF発光部を乾いた布などで拭いてください。
- ホログラフィックAF発光部を手で覆わないようにご注意ください。
- AF測距枠は表示されません。AF測距枠表示が点滅し、中央付近の被写体を優先したAF動作になります。
- レンズフード（付属）を付けているとホログラフィックAFの発光がさまたげられます。
- シーンセレクションで☽（夜景モード）または[▲]（風景モード）が設定されているときは、ホログラフィックAFは発光しません。

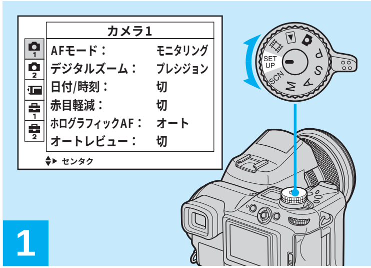
ホログラフィックAFとは

「ホログラフィックAF」はレーザーホログラムを応用し、暗闇での静止画撮影を可能にしたAF補助光システムです。このシステムはレーザー出力クラス1*を満たしており、従来の高輝度LEDや高輝度ランプを用いたシステムより、目にやさしく、安全性が高いという特長があります。

ホログラフィックAFの発光部を至近距離から直接のぞき込んでも安全上問題はありませんが、懐中電灯を直接のぞき込んだときと同様、数分間残像が残ったり、眼が眩むことがありますので、お控えください。

* JIS規格（JP）、IEC規格（EU）、FDA規格（US）すべての時間基準30000秒のクラス1を満たしています。これはレーザー光を直接、またはレンズなどで集光して30000秒間のぞき込んでも安全なレーザー製品を意味しています。

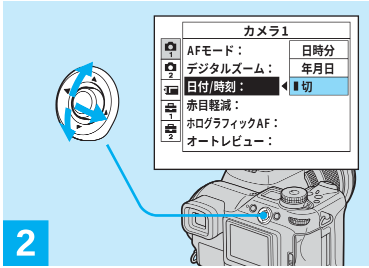
日付や時刻を入れて撮る



1

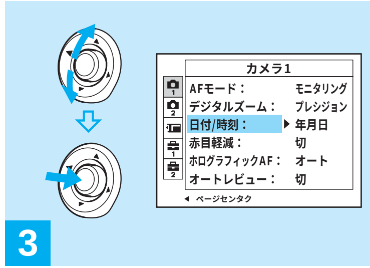
➡ モードダイヤルを「SET UP」にする

SET UP画面が表示されます。



2

➡ マルチセレクターを▲に動かして［📷1］（カメラ1）を選び、▶に動かす。
▲/▼に動かして［日付／時刻］を選び、▶に動かす



3

➡ マルチセレクターを▲/▼に動かして挿入するデータの種類を選び、中央を押す

日時分： 画像に撮影日時分を入れる
年月日： 画像に撮影年月日を入れる
切： 画像に日付・時刻は記録されない

設定が終わったら、モードダイヤルを「📷」にして、撮影してください。

- マルチ連写モードでは、日付・時刻の挿入はできません。
- 一度挿入した日付や時刻は、あとで消去できませんのでご注意ください。
- 撮影時は実際の日付や時刻は表示されず、画面にDATEが表示されます。実際の日付や時刻は、再生時に画像右下に赤色で表示されます。

- モードダイヤルを「P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」の位置にしても撮影できます。
- ［年月日］を選んだ場合、「日付／時刻を合わせる」（17ページ）で選んだ表示順の年月日が挿入されます。
- ここで選んだ設定は、電源を切った後も保持されます。

場面に合わせて撮る ― シーンセレクション

夜景モード



夜景＆人物モード



風景モード



ポートレートモード



夜景、夜景と人物、風景、ポートレートを撮影するときは、下記のモードを使用して効果を高めることもできます。

夜景モード

暗い雰囲気を損なわずに、遠くの夜景を撮影することができます。シャッタースピードが遅くなるので、三脚のご使用をおすすめします。

- 夜景モード中は以下の操作ができません。
  – 近接（マクロ）撮影
  – フラッシュ撮影
  – ブラケット
  – 連写
  – マルチ連写

夜景＆人物モード

夜景と手前の人物を同時に撮影するときに使います。夜景の雰囲気を損なわずに、手前の人物を際だたせた画像を撮影することができます。シャッタースピードが遅くなるので、三脚のご使用をおすすめします。

- フラッシュはSL（スローシンクロ）になります。
- ブラケット、連写、マルチ連写撮影はできません。

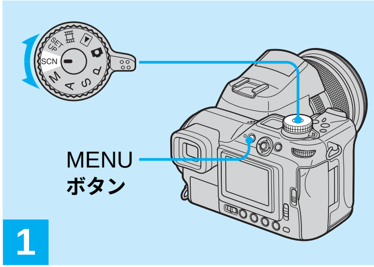
風景モード

遠景にピントを合わせることで、遠くの風景などを撮影しやすくします。

- 近接（マクロ）撮影はできません。
- フラッシュは（強制発光）または（発光禁止）になります。

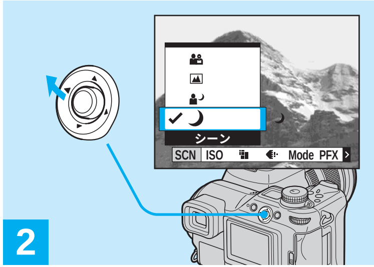
ポートレートモード

背景をぼかし、被写体の人物を際だたせた画像を撮影することができます。

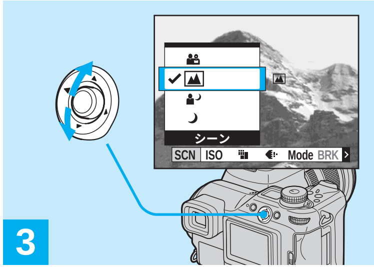


→ モードダイヤルを「SCN」にして、MENUボタンを押す

メニューが表示されます。



→ マルチセレクターを◀に動かして［SCN］（シーン）を選ぶ



→ マルチセレクターを▲/▼に動かして希望のモードを選ぶ

モードが確定します。設定が終わったら、MENUボタンを押してください。画面からメニューが消えます。

シーンセレクションを解除するには

モードダイヤルを「SCN」以外にしてください。

- シャッタースピードが一定より遅い設定になると自動的にNRスローシャッター（**別冊応用編** ➡ 14ページ）機能が働きます。撮影に時間がかかる場合があります。
- ここで選んだ設定は、電源を切った後も保持されます。

本機の画面で見る

シングル画面



インデックス画面



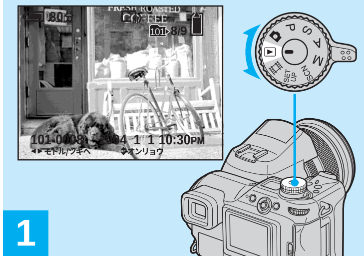
撮影した画像を本機の画面ですぐに見ることができます。表示方法は下記の2種類から選ぶことができます。

シングル画面
1枚の画像を画面いっぱいで見ることができます。

インデックス画面
9枚の画像を同時に見ることができます。

- コマンドダイヤルでも、画像を先送りしたり、前に戻したりできます。
- 動画の再生については、**別冊応用編** ➡ 60ページをご覧ください。
- 表示項目について詳しくは、**別冊応用編** ➡ 118ページをご覧ください。

シングル画面で見る



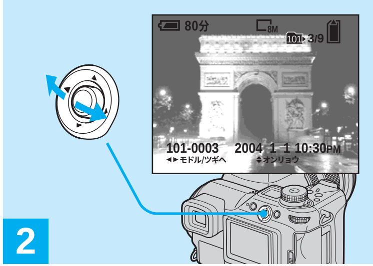
1

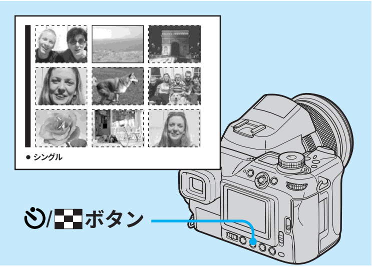
➡ モードダイヤルを「▶」にして、電源を入れる

選択されている記録フォルダ（**別冊応用編** ➡ 42ページ）の最新の画像が表示されます。

- 表示直後は画像処理のために粗い画像が出ることがあります。
- 記録メディアの選択は、メモリースティック/CFスイッチを使って行ってください（19ページ）。

インデックス画面で見る





➡ マルチセレクターを◀/▶に動かして静止画を選ぶ

◀：前の画像が表示されます。
▶：次の画像が表示されます。

➡ ⏲/▦（インデックス）ボタンを押す

インデックス画面に切り換わります。

次（前）のインデックス画面を表示するには

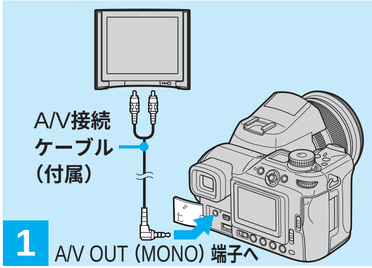
マルチセレクターを▲/▼/◀/▶に動かして、黄色い枠を上下左右に動かしてください。

シングル画面に戻るには

⏲/▦（インデックス）ボタン、またはマルチセレクターの中央を押してください。

静止画を見る

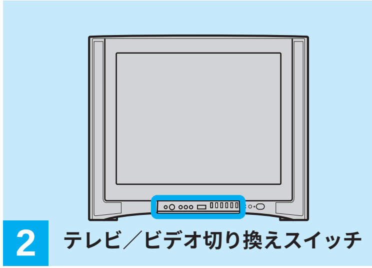
テレビで見る



➡ 付属のA/V接続ケーブルで本機のA/V OUT（MONO）端子と、テレビの映像／音声入力端子を接続する

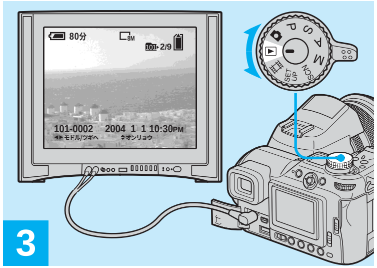
テレビの音声入力端子がステレオタイプのときはA/V接続ケーブルの音声プラグ（黒）を左音声端子に接続してください。

• 本機とテレビの電源を切ってからA/V接続ケーブルをつないでください。



➡ テレビの電源を入れ、テレビ／ビデオ切り換えスイッチを「ビデオ」にする

• お使いのテレビによって、スイッチの名称や位置は異なります。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

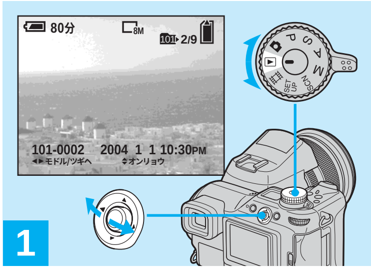


➡ モードダイヤルを「▶」にして、本機の電源を入れる

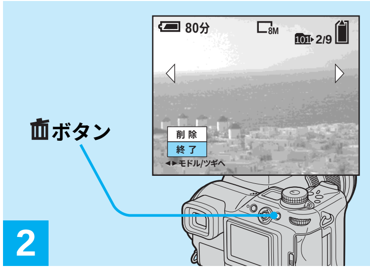
マルチセレクターを◀/▶に動かして画像を選びます。

• 記録メディアの選択は、メモリースティック/CFスイッチを使って行ってください（19ページ）。
• 海外でお使いのときは［ビデオ信号出力］の切り換えが必要な場合もあります（**別冊応用編 ➡** 106ページ）。

静止画を削除する

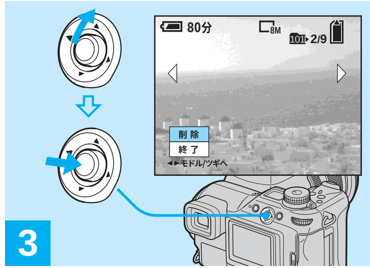


➡ モードダイヤルを「▶」にして、電源を入れる。
マルチセレクターを◀/▶に動かして削除したい画像を表示する



➡ 🗑（削除）ボタンを押す

この時点ではまだ削除されていません。



➡ マルチセレクターを▲に動かして［削除］を選び、中央を押す

「アクセス中」と表示が出て、画像が削除されます。

続けて他の画像も削除するには

マルチセレクターを◀/▶に動かして削除したい画像を表示します。次に▲に動かして［削除］を選び、中央を押してください。

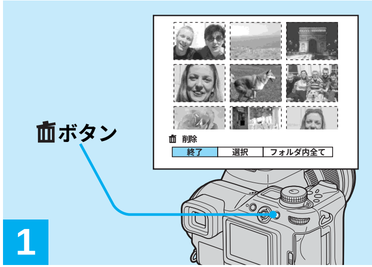
削除を中止するには

マルチセレクターを▼に動かして［終了］を選び、中央を押してください。

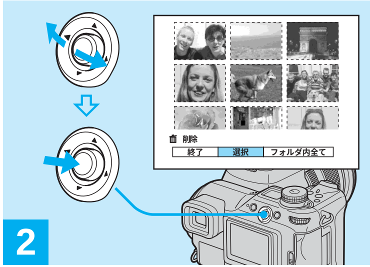
- 記録メディアの選択は、/CFスイッチを使って行ってください（19ページ）。
- 1度削除した画像は元に戻せないのでご注意ください。

- プロテクトされている画像（**別冊応用編** ➡ 48ページ）は削除できません。

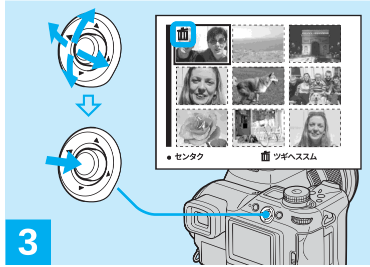
インデックス画面で削除する



➡ **インデックス画面（39ページ）で、(削除）ボタンを押す**



➡ **マルチセレクターを◀/▶に動かして［選択］を選び、中央を押す**

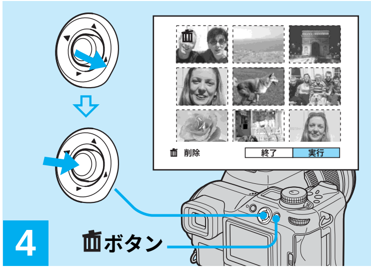


➡ **マルチセレクターを▲/▼/◀/▶に動かして削除したい画像を選び、中央を押す**

選んだ画像に（削除）マークが付きます。この時点ではまだ削除されていません。削除したいすべての画像にマークを付けてください。

- 1度削除した画像は元に戻せないのでご注意ください。

- 選択を取り消すには、もう1度取り消したい画像を選んで、マルチセレクターの中央を押してください。マークが消えます。



→ 🗑（削除）ボタンを押し、マルチセレクターを▶に動かして［実行］を選び、中央を押す

「アクセス中」と表示が出て、🗑マークを付けた画像が削除されます。

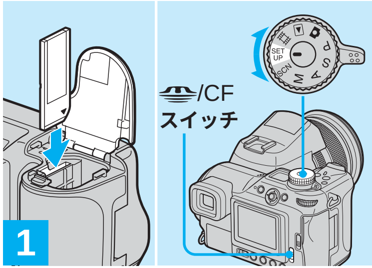
削除を中止するには

マルチセレクターを◀に動かして［終了］を選び、中央を押してください。

フォルダ内のすべての画像を削除するには

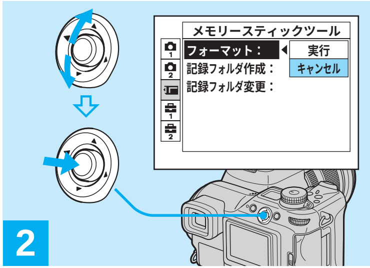
手順**2**でマルチセレクターを▶に動かして［フォルダ内全て］を選び、中央を押してください。次に［実行］を選び、中央を押してください。プロテクトされていないすべての画像が削除されます。削除を中止するときは［キャンセル］を選び、中央を押してください。

記録メディアをフォーマットする



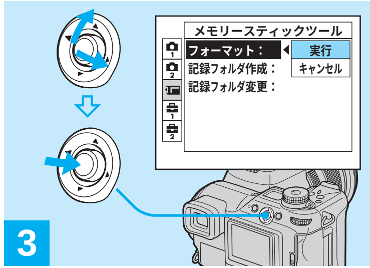
→ **フォーマットしたい記録メディアを入れ、/CFスイッチで記録メディアを選択する。**
モードダイヤルを「SET UP」にして、電源を入れる

- 「フォーマット」とは、記録メディアに画像を記録できるようにする作業のことで、「初期化」とも言います。
- “ メモリースティック ”はすでにフォーマットされており、すぐにお使いになれます。
- マイクロドライブまたはCFカードは、必ず本機でフォーマットしてからお使いください。本来の性能を出せないことがあります。
- **フォーマットすると、プロテクトした画像を含め、記録メディア内のすべてのデータが消去され元に戻せないので、ご注意ください。**



→ **“ メモリースティック ”をフォーマットするときは、マルチセレクターを▲/▼に動かして［ ］（メモリースティックツール）を選ぶ。**
マイクロドライブまたはCFカードをフォーマットするときは、［ ］（CFカードツール）を選ぶ。
▶に動かして［フォーマット］を選び、▶に動かす

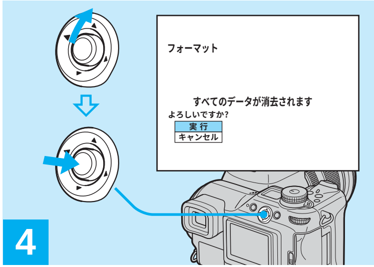
- フォーマットの途中で電源が切れないようにするため、ACアダプターのご使用をおすすめします。



→ **マルチセレクターを▲に動かして［実行］を選び、中央を押す**

フォーマットを中止するには

マルチセレクターを▼に動かして［キャンセル］を選び、中央を押してください。



➡ マルチセレクターを▲に動かして［実行］を選び、中央を押す

「フォーマット中」という表示が消えると、フォーマットが完了します。

静止画をパソコンに取り込むまで

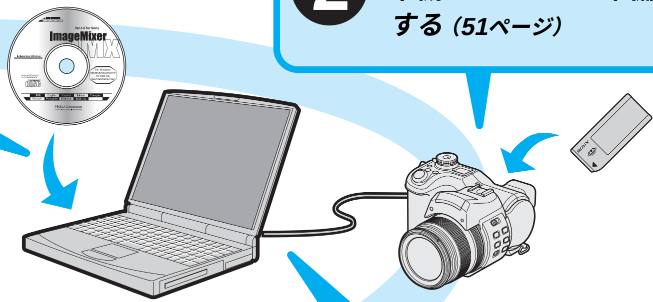
❶ Windows 98/98SE/2000/Meのみ

USBドライバをインストールする（48ページ）
（48ページ）

2回目以降、画像を取り込むときは不要です。

Windows XPは手順❷から始めます

❷ 本機とパソコンを準備する（51ページ）



❸ USBケーブルで接続する（52ページ）

❹ 画像ファイルをパソコンにコピーする（53ページ）



❺ パソコンで画像を見る（59ページ）

パソコンとの接続方法や最新サポート情報はデジタルイメージングカスタマーサポートのホームページをご覧ください。

http://www.sony.co.jp/support-di/

- Mac OS 9.1/9.2、Mac OS X（v10.0/v10.1/v10.2）は63ページをご覧ください。

パソコンの推奨使用環境

■ Windowsパソコン環境

OS: Microsoft Windows 98/
Windows 98SE/
Windows 2000 Professional/
Windows Millennium Edition/
Windows XP Home Edition/
Windows XP Professional
工場出荷時にインストールされていることが必要です。
上記のOSでもアップグレードされた場合や、マルチブート環境の場合は、動作保証いたしません。

CPU: MMX Pentium 200 MHz以上

USB端子: 標準装備であること

ディスプレイ:800×600ドット以上
High Color（16 bitカラー、65000色）以上

- 本機はUSB2.0に対応しています。
- Hi-Speed USB（USB2.0 High Speed対応）対応のパソコン環境でご使用いただくと、従来より高速なデータ転送が可能になります。

■ Macintosh環境

OS: Mac OS 9.1/9.2、Mac OS X
(v10.0/v10.1/v10.2)
工場出荷時にインストールされていることが必要です。

USB端子: 標準装備であること

ディスプレイ:800×600ドット以上
32000色モード以上

- 1台のパソコンで2台以上のUSB機器を接続している場合、同時に使用するUSB機器によっては、本機が動作しないことがあります。
- USBハブ経由でご使用の場合は、動作保証いたしません。
- 推奨環境のすべてのパソコンについて動作を保証するものではありません。

USBモードについて

パソコンと接続するときのUSBモードには［標準］と［PTP］*の2通りの接続方法があり、お買い上げ時には［標準］に設定されています。
ここでは主に［標準］での使いかたを説明します。

* Windows XP、Mac OS Xに対応。パソコン接続時に、本機に設定されている記録フォルダ内のデータのみをパソコンにコピーします。フォルダを選択するには**別冊応用編** → 42ページの手順を行ってください。

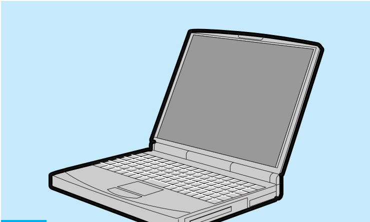
パソコンとの通信について

パソコンがサスペンド・レジューム機能、またはスリープ機能から復帰しても、通信状態が復帰できないことがあります。

USB端子がないパソコンをお使いの場合は

USB端子も記録メディアを挿入するスロットもないパソコンをお使いの場合は、アクセサリーを使うことにより画像を取り込めます。詳しくは、デジタルイメージングカスタマーサポートのホームページをご覧ください。
http://www.sony.co.jp/support-di/

❶ USBドライバをインストールする 98 2000 98SE Me

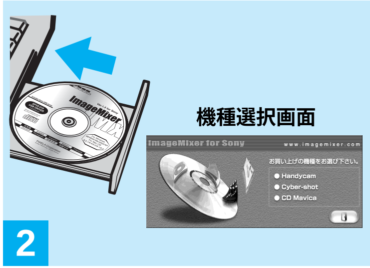


1

➡ パソコンの電源を入れる

この時点では、本機をパソコンに接続しないでください。

- OSの種類によって、画面表示や操作方法が異なることがあります。
- **パソコンを使用中の場合には、使用中のソフトウェアをすべて終了させてください。**
- Windows 2000をお使いの方は、Administrator（管理者権限）でログオンしてください。



2

➡ 付属のCD-ROMを、パソコンのCD-ROMドライブにセットする

機種選択画面が表示されます。
機種選択画面が表示されないときは、デスクトップ画面上の（マイ コンピュータ）→（ImageMixer）の順にダブルクリックしてください。

- ディスプレイの設定を800×600ドット以上、High Color（16 bitカラー、65000色）以上にしてください。
  800×600ドット未満、256色以下ではインストールの機種選択画面が表示されません。



3

➡「Cyber-shot」の部分に（ポインタ）を動かし、クリックする

インストールメニュー画面が表示されます。



4

→「USB Driver」の部分に（ポインタ）を動かし、クリックする

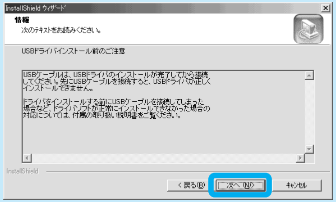
「Sony USB Driver用のInstallShieldウィザードへようこそ」画面が表示されます。



5

→［次へ］をクリックする

「情報」画面が表示されます。



6

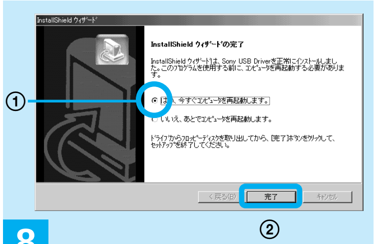
→［次へ］をクリックする

USBドライバのインストールが始まります。



7

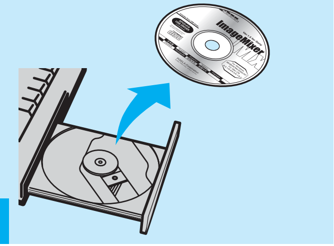
➡ インストールが終了すると「InstallShieldウィザードの完了」画面が表示される



8

➡「はい、今すぐコンピュータを再起動します。」の○をクリックして◉にし、［完了］をクリックする

パソコンが再起動します。

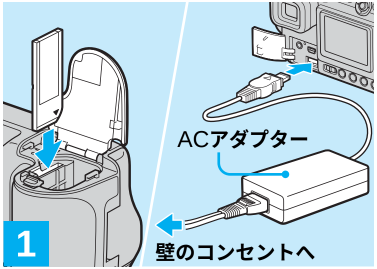


9

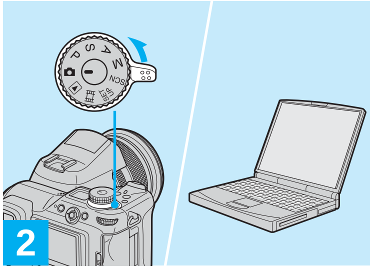
➡ 再起動後に、パソコンからCD-ROMを取り出す

本機とパソコンでUSB接続ができるようになります。

❷ 本機とパソコンを準備する 98 2000 XP 98SE Me



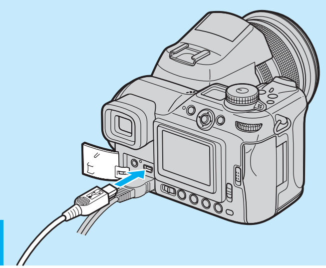
➡ **画像を記録した記録メディアを本機に入れる。本機とACアダプター（付属）をつなぎ、壁のコンセントにつなぐ**



➡ **本機とパソコンの電源を入れる**

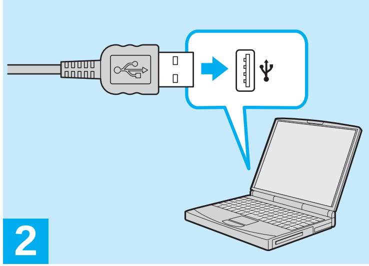
- 記録メディアの選択は、[MS]/CFスイッチを使って行ってください（19ページ）。
- バッテリーを使用して画像ファイルをコピーすると、バッテリー切れのため、データを転送できなかったり、データを破損する恐れがあります。ACアダプターのご使用をおすすめします。

❸ USBケーブルで接続する 98 2000 XP 98SE Me



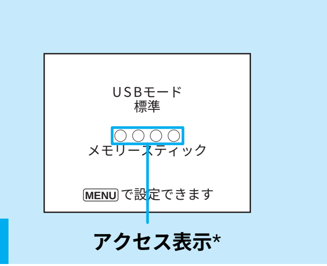
1

→ 付属のUSBケーブルを ψ(USB)端子につなぐ



2

→ USBケーブルをパソコンの USB端子につなぐ



3

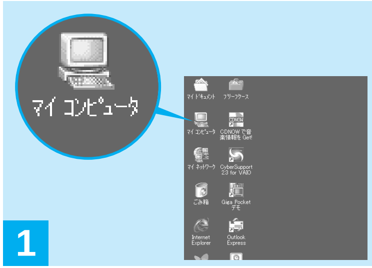
本機の画面に「USBモード 標準」と表示されます。
初回接続時のみ、パソコンが本機を認識するための作業を自動的に行います。作業が終わるまでお待ちください。

* 通信中はアクセス表示が赤色になります。

- デスクトップ型パソコンをお使いの場合は、パソコン後面にあるUSB端子のご使用をおすすめします。
- Windows XPをお使いの場合は、パソコンの画面に自動再生ウィザードが表示されます。56ページにお進みください。

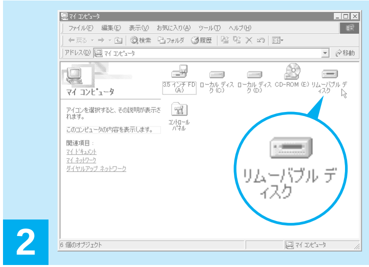
- 「USBモード 標準」と表示されないときは、MENUボタンを押して［USB接続］を選び、［標準］に設定してください。
- マイクロドライブまたはCFカード使用時にCFカードカバーを開けると、USB接続が切断されます。USB接続中はCFカードカバーを開けないでください。

❹ 画像ファイルをパソコンにコピーする 98 2000 98SE Me （XP 56～57ページ）



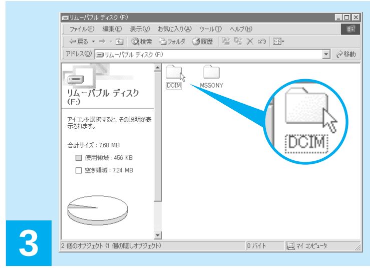
➡ ［マイ コンピュータ］をダブルクリックする

「マイ コンピュータ」画面が表示されます。



➡ ［リムーバブル ディスク］をダブルクリックする

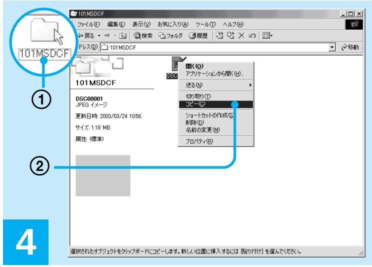
本機内の記録メディアの内容が表示されます。



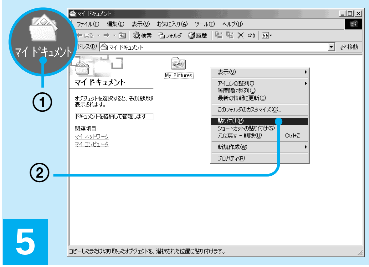
➡ ［DCIM］をダブルクリックする

新しくフォルダを作成していない場合は、「101MSDCF」フォルダのみ表示されます。

- ここでは、「マイドキュメント」というフォルダに画像をコピーします。
- リムーバブル ディスクが表示されていないときは、55ページをご覧ください。



➡ **取り込みたい画像の入っているフォルダをダブルクリックする。**
画像ファイルを右クリックしてメニューを表示し、［コピー］を選ぶ



➡ **「マイドキュメント」フォルダをダブルクリックする。**
右クリックしてメニューを表示し、［貼り付け］を選ぶ

「マイドキュメント」フォルダに画像ファイルがコピーされます。

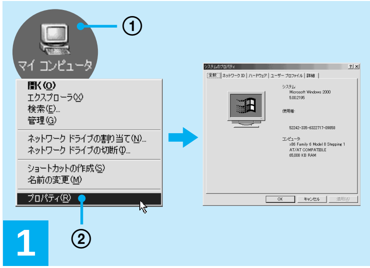
コピー先に同じファイル名の画像があるときは

元の画像を上書きしてもよいかを確認するメッセージが表示されます。上書きすると、元のファイルデータは消えます。

ファイル名を変更する場合

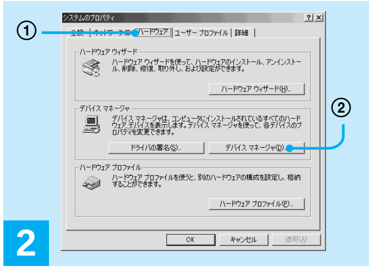
画像ファイルを上書きしないでパソコンにコピーする場合は、ファイル名を希望の名前に変更します。ファイル名を変更すると本機で再生できなくなる場合があります。本機で再生する場合は、62ページの操作を行ってください。

「リムーバブル ディスク」が表示されないときは



➡ [マイ コンピュータ] を右クリックしてメニューを表示し、[プロパティ] をクリックする

「システムのプロパティ」画面が表示されます。

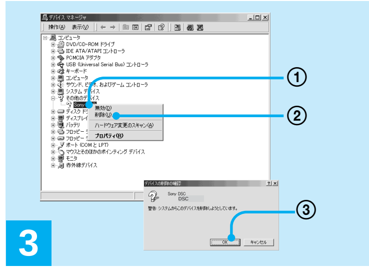


➡ [デバイス マネージャ] を表示する

① [ハードウェア] をクリックする。

② [デバイス マネージャ] をクリックする。

- Windows 98、98SE、Meをお使いの場合、①は不要です。[デバイス マネージャ] タブをクリックしてください。



➡ 「Sony DSC」が表示されていたら削除する

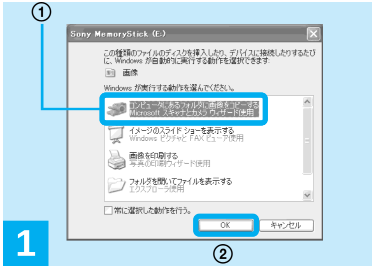
① 「Sony DSC」を右クリックする。

② [削除] をクリックする。
「デバイス削除の確認」画面が表示されます。

③ [OK] をクリックする。
デバイスが削除されます。

デバイスを削除したあと、付属のCD-ROMのUSBドライバをインストールし直してください（48ページ）。

❹ 画像ファイルをパソコンにコピーする XP



1

→ 52ページの手順でUSB接続を行うと、自動再生ウィザードが起動する。
［コンピュータにあるフォルダに画像をコピーする。Microsoftスキャナとカメラウィザード使用］をクリックし、［OK］をクリックする

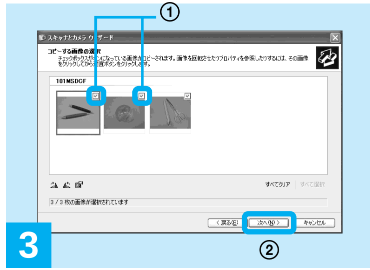
「スキャナとカメラ ウィザードの開始」画面が表示されます。



2

→ ［次へ］をクリックする

本機の記録メディアに記録されている画像が表示されます。



3

→ パソコンにコピーしない画像の ☑ をクリックして □ にし、［次へ］をクリックする

「画像の名前とコピー先」画面が表示されます。



➡ 画像の名前とコピー先を指定し、[次へ] をクリックする

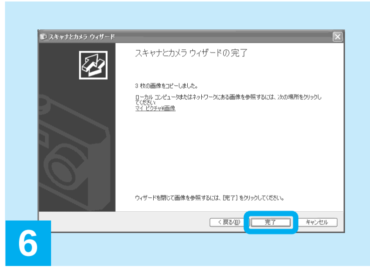
画像のコピーが始まります。コピーが終了すると、「そのほかのオプション」画面が表示されます。

- ここでは、画像のコピー先を「マイドキュメント」にしています。



➡ [作業を終了する] を選び、[次へ] をクリックする

「スキャナとカメラ ウィザードの完了」画面が表示されます。



➡ [完了] をクリックする

ウィザード画面が閉じます。

- 続けて画像をコピーしたい場合は、58ページの❗の手順に従ってUSBケーブルを一度抜き差しして、手順❶から行ってください。

USBケーブルを抜く、記録メディアを取り出す、または本機の電源を切るときは

Windows 2000/Me/XPをお使いの場合は

1 タスクトレイの をダブルクリックする。



ここをダブルクリック

2 （Sony DSC）をクリックし、［停止］をクリックする。

3 取りはずすドライブを確認して、［OK］をクリックする。

4 ［OK］をクリックする。
Windows XPをお使いの方は、手順**4**は不要です。

5 USBケーブルを抜く、または記録メディアを取り出す、本機の電源を切る。

Windows 98/98SEをお使いの場合は

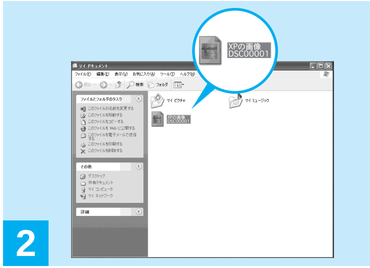
アクセス表示（52ページ）が白くなっていることを確認して、手順**5**のみ行ってください。

❺ パソコンで画像を見る 98 2000 XP 98SE Me



➡ [スタート] → [マイドキュメント] をクリックする

「マイドキュメント」フォルダの内容が表示されます。



➡ 見たい画像ファイルをダブルクリックする

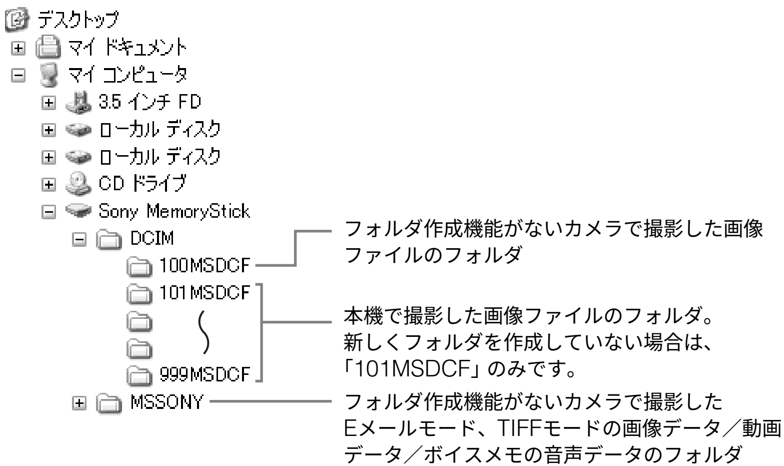
画像が開きます。

- 53、56ページで、「マイドキュメント」フォルダに画像をコピーした場合の説明です。
- Windows XP以外をお使いの場合は、デスクトップ画面上の［マイドキュメント］をダブルクリックしてください。

画像ファイルの保存先とファイル名

本機で撮影した画像ファイルは、記録メディア内のフォルダにまとめられています。

Windows XPで見たときの例（"メモリースティック"の場合）



- マイクロドライブまたはCFカードをお使いの場合でも、パソコン環境によっては「Sony MemoryStick」と表示される場合があります。
- 「100MSDCF」または「MSSONY」フォルダには本機で画像を記録できません。再生のみ可能です。
- フォルダについては、**別冊応用編** ➡ 8、42ページをご覧ください。

フォルダ名	ファイル名	ファイルの内容
101MSDCF ~ 999MSDCF	DSC0□□□□.JPG	● 以下のモードで撮影した静止画ファイル ー通常撮影モード（25ページ） ーブラケットモード（**別冊応用編**➡ 22ページ） ー連写モード（**別冊応用編**➡ 34ページ） – マルチ連写モード（**別冊応用編** ➡ 35ページ） ● 以下のモードで同時に撮影した静止画ファイル ーRAWモード（**別冊応用編**➡ 39ページ） ーTIFFモード（**別冊応用編** ➡ 40ページ） ーEメールモード（**別冊応用編** ➡ 40ページ） ーボイスメモモード（**別冊応用編**➡ 41ページ）
	DSC0□□□□.JPE	● Eメールモードで撮影した、通常よりサイズの小さい画像ファイル（**別冊応用編** ➡ 40ページ）
	DSC0□□□□.MPG	● ボイスメモモードで撮影した音声つきファイル（**別冊応用編**➡ 41ページ）
	DSC0□□□□.TIF	● TIFFモードで撮影した非圧縮画像ファイル（**別冊応用編**➡ 40ページ）
	DSC0□□□□.SRF	● RAWモードで撮影したRAWデータファイル（**別冊応用編** ➡ 39ページ）
	MOV0□□□□.MPG	● 動画ファイル（**別冊応用編** ➡ 59ページ）
	MOV0□□□□.THM	● 動画を撮影したとき同時に撮影されるインデックス画像ファイル（**別冊応用編** ➡ 59ページ）

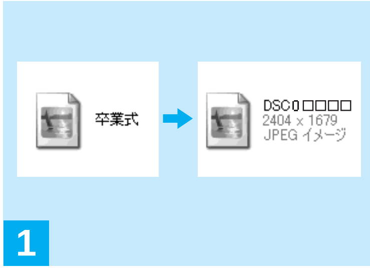
- □□□□には0001から9999までの数字が入ります。

- 下記のファイルの数字部分は同じになります。
  – RAWモードで撮影したRAWデータファイルとその画像ファイル
  – TIFFモードで撮影した非圧縮画像ファイルとその画像ファイル
  – Eメールモードで撮影した小サイズ画像ファイルとその画像ファイル
  – ボイスメモモードで撮影した音声ファイルとその画像ファイル
  – 動画モードで撮影した動画ファイルとそのインデックス画像ファイル

- RAWモードで撮影したRAWデータファイルを見るときは、付属のCD-ROMから、専用のソフトウェアをインストールすることが必要です。

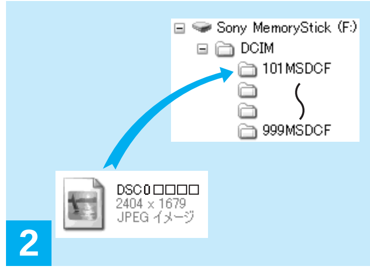
パソコンにコピーした画像ファイルを本機で見るには

パソコンにコピーした画像ファイルが、記録メディア内に残っていない場合、本機でもう1度その画像ファイルを見るには、パソコンにある画像ファイルを記録メディアにコピーしてから、本機で再生します。



➡ 画像ファイルを右クリックし、［名前の変更］をクリックする。ファイル名を「DSC0□□□□」に変更する

□□□□には、0001から9999までの数字を入れます。



➡ ファイルを記録メディア内のフォルダにコピーする

① 画像ファイルを右クリックし、［コピー］をクリックする。

② ［マイ コンピュータ］内の［リムーバブル ディスク］または［Sony MemoryStick］から［DCIM］フォルダを選んでダブルクリックする。

③ ［DCIM］フォルダ内の［□□□MSDCF］フォルダを右クリックし、［貼り付け］をクリックする。□□□には、100から999までの数字が入ります。

- 本機設定のファイル名を変更していない場合、手順**1**は必要ありません。
- 画像サイズによっては再生できない画像があります。
- パソコンで画像を加工したファイルや、本機以外で撮影した画像は本機での再生を保証しません。
- 上書きの警告が出た場合は、手順**1**で別の数字を入れ直してください。
- フォルダがない場合は、まず本機でフォルダを作成してから画像ファイルのコピーを行ってください（**別冊応用編** ➡ 8ページ）。

- パソコンの設定によっては、拡張子が表示されます。静止画の拡張子は「JPG」、動画の拡張子は「MPG」です。拡張子は変更しないでください。

Macintoshをお使いの場合

Mac OS 9.1/9.2、Mac OS X (v10.0/v10.1/v10.2)でご使用になれます。

❶本機とパソコンを準備する

詳しくは、51ページをご覧ください。

❷USBケーブルで接続する

詳しくは、52ページをご覧ください。

USBケーブルを抜く、記録メディアを取り出す、または本機の電源を切るときは

記録メディアまたはドライブのアイコンをゴミ箱にドラッグ＆ドロップしてから、USBケーブルを抜く、記録メディアを取り出す、または本機の電源を切ってください。

- Mac OS X v10.0をお使いの場合は、パソコンの電源を切ってからUSBケーブルを抜くなどの作業を行ってください。

❸画像ファイルをパソコンにコピーする

1 デスクトップ画面上の新しく認識されたアイコンをダブルクリックする。
本機内の記録メディアの内容が表示されます。

2 [DCIM] をダブルクリックする。

3 取り込みたい画像の入っているフォルダをダブルクリックする。

4 画像ファイルをハードディスクアイコンにドラッグ＆ドロップする。
ハードディスクに画像ファイルがコピーされます。

- 画像ファイルの保存先とファイル名について詳しくは、60、61ページをご覧ください。

❹パソコンで画像を見る

1 ハードディスクアイコンをダブルクリックする。

2 画像ファイルをフォルダの中から選んでダブルクリックする。
画像が開きます。

Mac OS Xをお使いの方へ

Eメールモードの画像ファイルをクリックした際、「書類“ DSC0□□□□.JPE ”を開くことができるアプリケーションがありません」という画面が出たときは、以下の設定を行ってください。
バージョンによって、画面表示が異なることがあります。

1 「書類“ DSC0□□□□.JPE ”を開くことができるアプリケーションがありません」画面の［アプリケーション選択］ボタンをクリックする。

2 「表示」を［推奨アプリケーション］から［全アプリケーション］に変更する。

3 アプリケーションが一覧表示されている部分から、[QuickTime Player] を選択し、[開く] ボタンをクリックする。

索引

数字の前に「応」がついているページは別冊応用編のページです。

ア行

カ行

サ行

タ行

ナ行

ハ行

マ行

ラ行

アルファベット

サイバーショット
カスタマー
登録

電話のおかけ間違いにご注意ください。

お客様へのサポートをより充実させていくため、「カスタマーご登録」をお勧めしています。詳しくは同梱の「カスタマー登録のご案内」をご覧ください。

■ **カスタマーご登録およびご登録内容の変更：**
http://www.sony.co.jp/di-regi/
お問い合わせ：**ソニーマーケティング（株）カスタマー専用デスク**
電話：0466-38-1410
受付時間：**月～金曜日　午前10時～午後6時**（ただし、年末、年始、祝日を除く）

お問い合わせ窓口のご案内

パソコンとの接続方法や最新サポート情報

デジタルイメージングカスタマーサポート
http://www.sony.co.jp/support-di/

ご使用上での不明な点や技術的なご質問

テクニカルインフォメーションセンター
電話：　0564-62-4979
（電話のおかけ間違いにご注意ください。）
受付時間：月～金曜日　午前9時～午後5時
（ただし、年末、年始、祝日を除く）
お電話の前に以下の内容をご用意ください。
①お客様のID
（カスタマーご登録していただくとIDが発行されます。）
②本機の型名（本機底面をご覧ください。）
③本機の製造番号（本機底面をご覧ください。）

修理申し込み

製品の品質には万全を期しておりますが、万一不具合が生じた場合左記のテクニカルインフォメーションセンターへお電話ください。
お客様のお宅まで指定宅配便で取りにおうかがいします。

3 0 8 4 9 9 6 0 4

この説明書は100%古紙再生紙とVOC（揮発性有機化合物）ゼロ植物油型インキを使用しています。

Printed in Japan

ソニー株式会社 〒141-0001 東京都品川区北品川6-7-35

http://www.sony.co.jp/

サイバーショットオフィシャルWEBサイト
http://www.sony.co.jp/cyber-shot/
サイバーショット、マビカの最新情報を掲載。
撮影方法やアクセサリー情報、
パソコン接続に関する情報を掲載しています。